

NPO法人



いわき環境研究室 News Letter

(2014.4 ~ 2015.6)

会員の皆様には、日頃よりのご支援に感謝申し上げます。お陰様で当法人も平成 19 年 12 月に発足して以来、8 年目を迎えることができました。2011 年 3 月の大震災後、一時は活動を縮小せざるを得ない状況がありましたが、当会の事業目的として掲げている 3 本柱の事業（①地域環境についての調査・研究及び政策提言、②地域環境についての教育に係わる事業、③地域環境を改善するための諸活動）を中心に事業を展開しております。平成 26 年度の総会では、会費が下記のように改正されました。

第 8 条（入会金及び会費）会員は、総会において定められる会費を納入しなければならない。

附則 6. この法人の会費は、第 8 条の規定にかかわらず、次に掲げる額とする。

年会費 正会員 2,000 円、 特別会員 1 口 10,000 円

以下、時系列に沿って、平成 26 年度の事業内容を中心に報告します。（事業内容は、いわき地域環境科学会の会報「ふいーど」104 号～111 号にも掲載しています）

【1】「小学生の夏休み自由研究のための支援講座」を開催しました

平成 26 年 7 月 13 日（日）午前 10 時から 14 時、いわき市フラワーセンターにて講座を開催しました。今回は、「風を持つさまざまな力を考える」をテーマに、講義と実験を交えての支援講座となり、親子 7 組が参加しました。平川英人さんの開講挨拶の後、講義①では「空気を持つさまざまな力」（中西恒雄さんが担当）をテーマに真空フックの力や長いストローを使って床の上のジュースを吸い上げる実験等を交えながら、目に見えない空気の力について考えました。

講義に続いて、参加者全員で「風上に向かって進む車」作りに挑戦しました。皆、悪戦苦闘しながらも、車づくりに集中していました。昼食を挟んで、2 m の距離を何秒で走るかタイムを競いました。競技内容について古内栄一先生から講評を戴きました。この間、草野芳久さんから、太陽光を使ったさまざまな模型の演習実験の披露がありました。講義②の「自由研究の進め方」は、橋本孝一が担当し、午後 2 時過ぎ無事講座を終了しました。



ストローで床のジュースが飲めるかな

【2】農業用水路の環境調査

7月20日(日)、昨年に引き続き小川町関場地区農地・水環境保全団体からの依頼で、同地区内を流れる農業用水路の環境調査の支援を行いました。地区からは、43名(児童22名、保護者21名)が、また当NPOからは、平川、江尻、橋本の3名が活動に参加しました。

最初に6班に分かれて、地区内を流れる農業用水路に入り水生生物の調査を行いました。多数のシマドジョウ、トビケラ、トンボのヤゴ、トノサマガエル、タモロコ、カワニナ、ヒル、ミズムシ等、一見、生き物など見当たらないと思われる水路にも多くの生き物が生息しているのを実感したようでした。現地調査の後、関場集会所に戻り、班毎に農業用水路、小川江筋、加路川の3種類の水の水質(COD、透視度、におい、導電率)を分析、互いの水の特徴について考えました。実験後、水生生物及び水質調査結果のまとめと外来魚について平川さんから説明があり、講座を終了しました。



班毎に採取した水生生物の分類に挑戦

【3】いわき市内河川の水生生物の生息状況等の調査

当NPOでは、市内河川の水生生物の生息状況とその生息環境等の調査を通じて、水環境の実態を把握し、学校・地域の環境学習の基礎資料の作成を企図しておりましたが、「平成26年度環境まちづくり担い手育成支援事業(いわき市)」の助成を受け、標題の事業に取り組みました。平成26年度は、夏井川水系を中心に調査を行ないました。調査地点としては、定点2箇所(6月～11月の間毎月1回調査)の他、本川・支川を含む8箇所(期間中1回調査)の合計10箇所を選定しました(図-1)。

調査に際しては、水生生物の他、水質や流れの状況、流域に占める位置等を記録し流域の水環境マップを作成し報告書等を提出しました。



図-1 夏井川流域の調査地点

【4】「第3回こどもあいネットフェア」に参加しました

今回、「こどもあいネットフェア」事務局からの呼びかけで初めて参加しました。平成26年12月20日(土)の午前中、アリオス2階にて市内25団体が参加して開催されました。当NPOは、風上に向かって進む車(「ウインドカー」)の実演と製作に取り組みました。子供連れの親子30組ほどがコーナーを訪れてくれました。予め用意したキットを使って自分で製作に取り組んだり、完成品を試走させ風上に向かって進む車に驚きの歓声を上げていたのが印象的でした。

【5】河川教育研究交流会に参加

公益財団法人河川財団主催の交流会が、1月31日、東京海洋大学品川キャンパスで開催され、当会から4人が参加しました。「水」を素材とした教育的価値の創造をテーマにパネルディスカッションや講演が行われました。

パネルディスカッションでは、幼稚園・小中学校5校での「川」をテーマとした環境教育の実践例が紹介されました

(①幼稚園における川遊び体験活動、②生き物の観察や水質調査をしよう、③学校敷地内を流れるせせらぎ観察園を活用した環境学習、④地域の研究者・技術者と連携した防災教育、⑤自然探求コース)。

その後、沖大幹氏(東京大学)による「川と水と文明を考える～川を利用し川を捨てた都市」と題しての講演がありました。シンポジウム・講演とも今後当NPOが事業を進める上でおおいに参考になる内容でした。

会場には、河川に関わる自然教育の実践報告書などの資料なども販売されていました。



【6】パルシステム連合会からの助成決定

かねてパルシステム連合会の「地域づくり基金」の平成27年度助成制度に対し「地域の再生可能エネルギーを活用した環境教育事業の推進」をテーマとする申請をしておりましたが、このほど、助成決定の連絡をいただきました(平成27年3月)。当会のメンバーを中心に、いわき地域環境科学会や関連団体のメンバーとも連携し、「いわき自然エネルギー研究会」を実質的な推進母体として事業を進めて参ります。

【7】平成27年度の総会が開催されました。

平成27年度の通常総会は、6月8日(月)18:00～福島高専専攻科棟にて開催され、会員14名の参加(登録正会員数18名)の下、平川英人理事の司会で進められました。議長に和田佳代子理事を選出。事務局より、平成26年度事業報告・決算報告・会計監査報告、続いて平成27年度の事業計画案及び予算案について説明・提案がなされ、質疑応答の後、原案通り認められました。役員改選では、現役員が引き続き任に当たることが決まりました。

平成27年度の事業計画を紹介しますと、



1. 地域環境についての調査研究および政策提言事業

- 1) 自然エネルギーの利活用に関する事業（パルシステム連合会からの助成金活用）
「いわき自然エネルギー研究会」として事業を展開する。（既存の施設の充実・維持管理、活用・広報・新規施設（湯の岳山荘）の建設・学習教材の充実）
- 2) 「いわき市内河川の水生生物の生息状況等の調査～鮫川流域編」業務
「平成 26 年度環境まちづくり担い手育成支援事業」（鮫川水系 7 箇所、水生生物及び水質・流況調査を実施する。）
- 3) 研修会等への参加。

2. 地域環境についての教育事業

- 1) 自然エネルギーに関する学習支援 ～ 平 4 小児童の他、近隣の小中学校・高校、一般からの参加を呼びかけていく。
- 2) 小学生対象の夏休み自由研究のための支援講座の開催
テーマ：「熱のエネルギーを考える」をテーマに講座を開催したい。（7/26）

3. 地域環境を改善するための諸活動事業

- 1) 農村水環境学習支援（下小川開場地区農地・水環境保全団体）（7/18）
- 2) 「第 4 回こどもあい♡ネットフェア」への参加（12/19）
- 3) 関連団体との連携事業 ～ ①いわき地域環境科学会との共催・連携、②「いわき鳴き砂を守る会」の諸行事への参加・支援（四倉海岸でのフェス等へ参加）、③夏井川流域の会の活動支援、④その他 要請があれば極力対応する。

4. その他

- 1) 広報活動 ～ ①HP の更新
②いわき地域環境科学会の会報「ふいーとど」（隔月発行）への投稿、
- 2) 事務局体制の強化
- 3) いわき地域環境科学会関連の会議等への出席

【8】新規会員

特別会員として、「生活協同組合パルシステム福島」様が、平成 27 年 6 月 10 日付でご入会いただきました。

当会は平成 27 年 6 月現在、下記の会員で構成されています。ご支援ありがとうございます

普通会員 18 名

特別会員 5 社（地質基礎工業株式会社、株式会社加地和組、小名浜製錬株式会社小名浜製錬所、株式会社エコハイテクコーポレーション、生活協同組合パルシステム福島）

NPO 法人 いわき環境研究室 ニュースレター

2015 年 7 月 1 日発行

発行：NPO 法人いわき環境研究室 代表者：橋本 孝一

所在地：福島県いわき市平下平窪字鍛冶内 53-14

TEL&FAX：0246-22-2621、E-Mail：khashi0823@hotmail.co.jp

URL：<http://www4.ocn.ne.jp/~iwaki-kk/>